



平成28年8月5日

各位

上場会社名 株式会社中村超硬
 代表者 代表取締役社長 井上 誠
 (コード番号 6166)
 問合せ先責任者 取締役社長室長 増田 宏文
 (TEL 072-274-1072)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成28年5月13日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成29年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成28年4月1日～平成28年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,850	540	500	300	64.88
今回修正予想(B)	2,200	△150	△255	△220	△47.44
増減額(B-A)	△1,650	△690	△755	△520	
増減率(%)	△42.9	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成28年3月期第2四半期)	3,084	603	660	540	144.67

平成29年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	9,400	1,700	1,600	1,000	215.53
今回修正予想(B)	7,300	460	300	140	30.07
増減額(B-A)	△2,100	△1,240	△1,300	△860	
増減率(%)	△22.3	△72.9	△81.3	△86.0	
(ご参考)前期実績 (平成28年3月期)	6,836	1,435	1,440	1,221	308.37

平成29年3月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成28年4月1日～平成28年9月30日)

	売上高	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,150	440	280	60.56
今回修正予想(B)	1,600	△270	△210	△45.29
増減額(B-A)	△1,550	△710	△490	
増減率(%)	△49.2	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成28年3月期第2四半期)	2,433	614	516	138.40

平成29年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	8,000	1,500	970	209.06
今回修正予想(B)	5,800	220	130	27.92
増減額(B-A)	△2,200	△1,280	△840	
増減率(%)	△27.5	△85.3	△86.6	
(ご参考)前期実績 (平成28年3月期)	5,438	1,330	1,172	295.83

修正の理由

(1) 第2四半期累計期間

平成29年3月期第2四半期累計期間の業績については、当社グループの主力商品であるダイヤモンドワイヤの販売において、顧客分散に向けた営業活動の強化により顧客数は増加しておりますが、主要顧客との間における販売単価の交渉過程で生じた取引量の減少が想定以上に見込まれ、当初計画した販売数量から半減する見通しであります。また、急激な円高の進行や中国現地メーカーの台頭による価格競争が激化している状況もあり、電子材料スライス周辺事業における売上高が約15億円、売上総利益が約7億円それぞれ当初計画から減少する見込みとなりました。

これらの状況により、第2四半期累計期間における連結売上高が1,650百万円、減収による影響で連結営業利益が690百万円それぞれ減少し、また、円高による為替差損40百万円の発生、持分法による投資損失額の増加26百万円等を見込むことにより連結経常利益が755百万円減少する見通しとなりましたので、前回予想を修正いたします。

(2) 通期

平成29年3月期通期の業績については、海外を中心に成長を続ける太陽電池市場を背景に、現在、新たな複数の中国大手顧客に対し、技術サポートと合わせた受注活動を展開しており、下半期における電子材料スライス周辺事業の売上高は上期想定額の約3倍となることを見込んでおります。また、ダイヤモンドワイヤの更なる細線化(φ0.08mm→φ0.07mm、φ0.06mmの推進)による付加価値向上や生産ラインの技術革新(ダイヤモンドワイヤ生産工数の削減等)を加速させることで収益性の改善を図っております。

これらの状況を踏まえ、平成29年3月期通期業績については、上半期における赤字見通しから黒字転換するものと見込んでおりますが、前回予想数値の実現は困難な状況にあることから、上表の通り前回予想を修正いたします。

なお、今回の修正は、当社グループ事業セグメント中の、電子材料スライス周辺事業に起因するものであり、特殊精密機器事業及び化学繊維用紡糸ノズル事業においては、ほぼ当初計画通りに推移するものと見込んでおります。

※上記の業績予想は、本資料の公表日現在において入手可能な情報に基づき算定しており、実際の業績は、今後様々な要因により上記予想数値と異なる可能性があります。

以上